

意見募集（パブリックコメント）の結果について

意見公募案件名	第3次五泉市子ども読書活動推進計画（案）
意見公募期間	令和6年12月10日（火）～令和7年1月10日（金）
公表方法	市ホームページ、図書館ホームページ、市役所 行政資料コーナー、村松支所 行政資料コーナー、五泉市立図書館、五泉市立村松図書館
問い合わせ先	五泉市立図書館 資料係 TEL 0250-43-3110

■寄せられた意見等の件数

提出方法		件数	人数	新たに意見を 反映したもの	その他
合 計		5 件	2 人	0件	5 件
内 訳	電子メール	0 件	0 人		
	ファックス	0件	0人		
	郵送	0件	0人		
	持参	5 件	2 人		

■寄せられた意見、ご要望とそれに対する市の考え方

No.	寄せられたご意見、ご要望の概要	市の考え方
①	【数値指標について】 小学生・中学生の目標指数で「1日の読書時間が30分以上」とあり、学校での一斉読書時間を除くとありますが、一斉読書での読書時間も入れてもいいのではないかと思います。子どもの立場からすれば読書をしているわけですし、学校で一斉に時間は確保しても、子どもが自分で読みたい本を選んで読書しているのであれば、自主的な読書とも捉えられるのでは？と思います。朝読書などの一斉読書を読書時間に入れないとすると、一日のどの時間で30分以上読書するかを考えた時、家に帰ってからの時間であれば、例えば小学生では、家庭学習を学年×10分と音読が行われています。小学校6年生で考えると、毎日1時間以上家で学習し、そして30分以上読書するということは、学年が進むにつれて多様な活動が増えていく中で、本好きでもなかなか大変なのではないかな？と思いました。 そもそも毎日30分以上読まないといけないのでしょうか？私は、好きな本を好きな時間に自分のペースで読めた方が、読書への意欲から習慣化につながるのではないかと思います。私は、どちらかというと、「1ヶ月に一冊も本を読まない子ども」に注目しています。朝読書で自分の読みたい本を読み、本を好きになってくれれば、1ヶ月に一冊も本を手にとることがなかった、ということはありません。	朝の一斉読書時間は、ご意見のとおり、子どもが本とふれあう重要な機会であり、学校の実情に応じて読書に取り組む時間を確保しております。 五泉市では、子どもがあらゆる機会と場所において自主的に読書し、本に親しむことができることを目標として、子ども読書活動推進計画を策定しています。 第2次計画の振り返りで行った子どもの読書に関するアンケートは、第1次計画の振り返り時と比較するために、同じ質問項目といたしました。しかし子どもの生活環境の変化を鑑み、今後検討してまいります。

	新設された「小中学生の不読率」の指標数も、一斉読書を入れれば目標値に到達すると思います。一斉読書を一日の読書時間に入れないでこの指標数は、かなり入念な取組をしないと厳しいのではないかと思います。	
②	【読書活動を推進するための方策について】 アンケートの結果から、読書が必要だと考える園の保護者が増え、読み聞かせをしない保護者は減っていることが分かりました。就業前の子どもに対して、家庭での読み聞かせが増えたことが成果となっていると思いました。一方で小学校1～3年生が一日で読まない時間が就学時未満の子どもより増えています。これは、本を大人から読んでもらう→子どもが一人で主体的に読むという課程で、一人で読むことに困難を感じているからではないか？と思いました。文章、特に長い文章を読むのが苦手な子どもにとって、学年が進めば進むほど文章だけの本を難しいと感じ、読みたくなくなるのではないかと考えます。大人にとっては、子どもが学校で文字や文章を読むことを学んだことで、子どもに自分一人で読んで欲しいという期待があると思います。しかし読むと楽しいかもしれないけれど、読むことを苦手と感じている子どもにとっては「面倒だなあ。」「読みたくないな。」となるのではないかと思います。そこで、そのような子どもに対して、私なりに考えたことがいくつかあります。 (1) 一つ目はいろいろな読み方をやってみることです。一冊の本を一人で読むのが苦手であれば、二人でとか何人かで読むと言うのはどうでしょう。一文ごとや1ページごとに交代でもいいし、グループでも家族でやってもいいし、例えば話の中に出てくる登場人物で役割分担しても楽しいかもしれません。少しずつ自分一人で読めるようになると、1冊自分一人で読めたという達成感にもなると思います。 (2) 二つ目は、どんな本を読んでもOK!という雰囲気作りです。学年が進むと文章がたくさん書いてある厚い本を読んで欲しい、と子どもに期待すると思います。それはとてもよく分かるのですが、その子どもが読みたくない本では意欲が育たないのではないかと思います。下学年向けの本であってもよいのではないかと思います。 (3) 三つ目は「味見読書」の活動です。学校の読書活動推進の事例としてこの活動を知りました。ど	一人で読書することが苦手な子どもたちへの取り組みとして、様々なご提案をありがとうございます。 (1) 当市では、毎月23日を「家読(うちどく)の日」としております。「家読」は、家族で同じ本を読んだり、1行や1ページずつお互いに読み合ったり、違う本を読んで勧め合ったり、いろいろな読み方を行うことで、家族のコミュニケーションや読書習慣の定着化などを図る取り組みです。今後も子どもがより読書の達成感を感じられるような取り組みを検討し、計画してまいります。 (2) 読書活動を推進する上で最も重要なことは、子ども自身が読書を楽しむことだと考えます。子どもの自主的な読書を尊重できるよう、子どもに関わる大人に対して、働きかけを行ってまいります。 (3) 「味見読書」で、食べ物の味見のような感覚で本を読み、同じ本を味見した子ども同士でその面白さを語り合うことは、長い文学作品を読むことに抵抗がある子どもにとって有効な手段であると考えます。学校と連携し、手法の研修会の実施や、情報提供を行ってまいります。 ご意見にありました事業の提案については、今後の施策の参考とさせていただき、子どもの読書活動を推進してまいりたいと考えます。

②	んな本を読んだらいいか分からない、自分に合う本が見つけれない子どもに成果があるそうです。短時間で次々にいろいろな本を読んでいけるし、友達と一緒に活動できることも子どもには楽しいと思います。また、この活動は、読むことが苦手な子どもだけでなく、本に興味をもち、読書活動を広げることにも効果が期待されるそうです。	
③	寺子屋でも学習活動の一つとして、読書に取り組んでいます。具体的には、学習を早く終えた子どもが、図書館から寺子屋として借りている本、子どもが持ってきた本（家にある本、学校や市の図書館から借りた本）を読んでいます。寺子屋として図書館から借りた本はすぐ飽きてしまうようですが、自分が持ってきた本は、熱心に読んでいます。自分が持ってきた本に、市の図書館から借りた本が少ないことが残念です。子どもたちが借りやすい、行ってみたくなる図書館作りをお願いします。	学校、寺子屋、学童クラブ等各教育施設間での情報共有により、市立図書館でも子どもが求める資料の把握に努め、魅力ある蔵書整備を行いたいと考えます。 また、来館しやすい図書館となるよう、安全・安心な環境づくりに努めます。さらに、図書館に来ることが子どもにとって、楽しみのひとつとなるような読書イベントを開催し、なお一層子どもが本と出会える機会を増やしてまいります。
④	寺子屋指導者の共通認識として、「問題が分からない」ことより「問題を読まない」ことが問題だ、という意見があります。「聞く・話す」に比べて「読む・書く」の苦手な子どもが多いと感じます。社会の流れとして、自分の意見をはっきり述べたり、効果的にプレゼンテーションを行う力を付けることを重視する傾向があります。しかし、「読む」ことは、すべての「学び」基礎となるものであり、その重要性は、時代の変化に関わらず軽視できないものだと思います。	子どもの成長過程において、「読む・書く」の重要性は、ご意見にあるとおりです。子どもの語彙力や読解力を高めていくためにも、子どもが活字と関わる機会を増やす取り組みが必要と考えます。さらに充実した読書環境を整えるよう取り組みを進めてまいります。
⑤	学校では、文部科学省が毎年「全国学力・学習状況調査」を実施しています。その中に、読書に関わる内容が含まれているので、参考になります。全国規模の悉皆調査で、年度の推移や全国との比較、新潟県との比較ができるので、教育委員会の学校教育課と連携をとって計画に生かしていただきます。 「全国学力・学習状況調査」の質問項目と内容 (23) あなたの家には、およそどれくらいの本がありますか（雑誌、新聞、教科書は除きます）。	関係課と連携し、子どもの読書環境の調査に努め、今後の計画の参考とさせていただきます。